

## 2018 年度版 浴衣ヘア&メイク&着付部門 要項

### (1) 課題の内容

- 浴衣の着付(半幅帯使用)、及びセット、メイクを行う。
- 帯結びは自由とする。
- 浴衣にふさわしい着付、セット、メイクをすること

### (2) 競技の方法

- セット・メイクの競技、浴衣着付までの競技、帯結びの競技に分けて行う。
- 審査はヘア&メイク&着付のトータルで採点される。
- モデルは人体とし、プロ・アマは問わない。
- ベーシックな浴衣着付をベースとするが、華美にならない程度の創作的アレンジ、飾りは認める(チュール・レース使用可)(帯飾りとしての使用は 1 つまでです)
- セットの選手・メイクの選手・着付の選手の3人までの参加も可  
(競技中の2人以上の同時施術不可)  
(ヘア・メイク時は1人ずつしか競技スペースに入れない)  
(着付室には着付の選手のみしか入れない)
- 選手の服装は上衣は白のブラウス、下は黒のスカート・スラックス・キュロットのいずれかとする。シンプルで清潔な服装で。(肌の露出の多いもの、透けるもの、ヒラヒラするもの、または膝上のは禁止する。帽子、スカーフ、ショール等も禁止する)

### (3) 競技時間

競技会場でメイク・セットの作業を 40 分、控室での浴衣着付までの作業 15 分、競技会場での帯結び作業を、衣装敷をはずし、履物をはかせて、ポーズつけまでの 10 分の合計 65 分。メイク・セット開始時には、立ったまま「お願い致します」、着付時には、衣装敷の左後ろに正座したまま「お願い致します」と挨拶してから、競技に入る。

### (4) 競技用具の準備(選手が準備するもの)

- ① 浴衣
- ② 半幅帯(最高で 2 本までとする)
- ③ 履物
- ④ ヘア用具一式
- ⑤ 化粧品一式

- ⑥ 衣裳敷き(120cm x 180cm 以内)
  - ⑦ 衣装箱(通常の衣裳箱及びそれに準ずる箱。  
プラスチックの衣裳ケースや手さげ型の衣裳ケースは除く  
※必ず持参し、縦 44 cm×横64cm×高さ 25 cm以内とする)
  - ⑧ 小物付属品  
肌襦袢、裾よけ(もしくはワンピース型の肌襦袢)  
腰紐(3~4本)・クリップ類・伊達巻き1本
  - ⑨ ボディ補正用具、変り結び用のひも 帯あげ、帯締め、帯板は必要に応じて用意(使用可)
  - ⑩ ガウン(競技会場でメイク・セットをする時に必ず着用する・色は白またはベージュ系に限る・ガウンの下は肌襦袢着用のこと)
  - ⑪ ガウンの上にはクロスやケープはせず、必ず前、後ろに白のタオルをかける。(バスローブは禁止)
  - ⑫ 椅子に座った時に膝が見える長さのガウンの方は、ひざ掛けを用意してくる(ひざ掛けは白で無地に限る)
- (5) 着付け競技に関する注意事項
- ① 衿どじは、事前にやってくること。
  - ② ものさし、メジャーの使用は認めない。
  - ③ 助手の使用は一切認めない。
  - ④ クリップを留めるための、ポーチや腰用のエプロンの使用は認めるが、タイム前にそれらにクリップを留めることは認めない。(スタート後はOK)
  - ⑤ ブラジャーの使用は認めない。和装用のブラジャーは使用可。(補正付は禁止)
  - ⑥ 胸をつぶすための補正やガーゼは使用して良い
  - ⑦ 極端に完成されたボディ補正道具の使用は認めない。  
※特に浴衣なので、過度な補正はしないように。
  - ⑧ 補正を止めるための、テープや包帯止めは使用可。
  - ⑨ ボディ補正のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。
  - ⑩ ひも付きのおしりパットも不可。
  - ⑪ 帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
  - ⑫ モデルが、ひも、伊達巻、帯などを結ぶことは認めない。(ただし、ひも、帯あげなどを、腕にかけたり、手に持つことは差し支えない。)
  - ⑬ モデルが、袖、衿元、裾などを修正すること、衿合わせを押さえることは認めない。(ただし、たもとを持ち上げることは差し支えない)

- ⑭ 帯に形付けをしたり、帯結びの課程につながる過度のたたみ方は認めない。
- ⑮ 袖の板紙使用は、撮影時は良いが、競技の際の使用は認めない。
- ⑯ 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ⑰ 草履を履いて審査を行い、審査中のモデルは、両手を軽く広げ、おはしよりが隠れないポーズをとる。(衣装敷をはずし、草履を履かせて、ポーズ付けまでが、タイムとする)

(6) 衣裳類の禁止事項

- 1 浴衣 ① 身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。  
② おはしより紙は使用禁止とする
- 2 帯 ① ひだの折り癖がつけられているものは認めない。
- 3 小物 ① コーリンベルトの使用は認めない。

(7) ヘア、メイクに関する禁止事項

- ① モデルがセットのブラシ・ピンなどを選手に渡すこと、メイクのブラシ・筆などを選手に渡すことは禁止とする。
- ② モデル自身による化粧施術は、競技中はもとより、控え室でも禁止する。
- ③ アイテープ及びつけまつ毛を事前につけてきたり競技中にモデルがつけることを禁止する
- ④ まつ毛エクステは禁止とする。
- ⑤ ヘアピース・髪飾りの使用は良い。ただし、ヘアピースの個数は1個とし、頭部の1/3以上を覆ってはならない。
- ⑥ まげや、おだんご、編み込みなど、あらかじめ形を作ってくることを禁止する)
- ⑦ 形の作られたすき毛、かつらやヘアピースの使用は認めない。

(8) その他の注意事項

- ① 競技中に選手同士またはモデル、観客と会話等をしてはならない。またアドバイスも受けてはならない。
- ② 競技中道具の貸し借りをしてはならない。
- ③ 競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視員の指示に従わない等の行為は禁止とする。
- ④ 競技中に2人以上選手が、モデルに施術または触れることは禁止とする。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、タブレットを競技会場への持込みは禁止とする。控室競技中も

- ⑥ 持ち物から出すことも禁止とする。
- ⑦ タイムを計るためのタイマー、時計等は使用禁止。携帯電話、スマートフォン、タブレットは禁止とする。
- ⑧ 競技中に選手が時計、ブレスレット、指輪は身につけてはいけない。
- ⑨ 控室にはモデル及び出場者本人以外の立入りを禁止する。
- ⑩ 補正及びメイクに使うタオルも白に限る。
- ⑪ 控え室、競技会場での電源は使用出来ない。コンセント不要の電気器具については使用を認める。(コードレスアイロン、充電式のコテなどは OK)
- ⑫ アミカラー等は事前に巻いて控室に入場し、競技開始までに外しておく。
- ⑬ メイクは下地クリームもしくはファンデーションから開始する。化粧水・乳液は競技前につけておいてOKとする。
- ⑭ 競技用具は、大会当日の朝、競技が始まる前に、監視委員が厳重に点検を行う。
- ⑮ 忘れものの申告は監視委員を通すこと。

【競技会場 たとう紙、衣装箱、選手靴、モデル草履の配置図】

